ふるさと 霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史 文化の再発見と創造を考える

ふるさと、風、

第134 (2017年7月)

風に吹かれて(11)

白井啓治

雨上がりの庭草は喜んでおる

現状を大きく変化させることはできない。
現状を大きく変化させることはできない限り、
との思いであるが、大きく変化の起こったことは、都民ではないだろう。都政に関わろうとする議員たちの資質が大きく変わったわけではないる議員たちの資質が大きく変わったわけではないる議員たちの資質が大きく変わることは、あまり期待のだから。どの政党が、ということではないある。というにというとは、おり、都民ファーストの会の圧東京都都議選が終り、都民ファーストの会の圧

う。
な選挙が改まらない限り、現状は変わらないだろな選挙が改まらない限り、現状は変わらないだろということである。流れに乗っかった烏合の衆的の政治から全体最適の政治への変化は起こらないあろう。この変化が起こってこないと、部分最適重要なことは、選挙民の選挙への認識の変化で

れないが、全体最適を志向するうえで、現状では数決が物事を決める絶対的最良の手段とは言い切の多数決の意味を理解することが必要である。多全体最適としての政治の変化は、民主主義としてこれまでも何度かこのコーナーで話してきたが、

最適な手段と言えよう。

多数決選挙の基本思想は、決定後に不都合、不多数決選挙の基本思想は、決定後に不都合、不の事に、その人に賛成票を入れなかったというである。このことを確りと理解できていれば、烏である。このことを確りと理解できていれば、烏である。このことを確りと理解できていれば、烏の衆としての流された選挙投票者も反対投票者も、と言える。

も、それこそごく最近のことである。すのように複雑な音声を持つようになったの球の誕生の歴史から見ればごくごく浅いものであさて、人間が言葉を持つようになった歴史は地

史的に見ればつい最近と言ってよい。発達が著しくなってからのことであるから、地球人の祖先が二足歩行をするようになって声帯の

個人的な意見ではあるが、言葉や文字が生まれの感性と表現の幅を拡大することとなった。文字の発明によって情報・知識を共有化することなり、一層の発達を遂げると同時に人間として文字の発明によって情報・知識を共有化することの順を追って述べることが出来るようになり、その順を追って述べることが出来るようになり、そ

ることで、危険と恐怖と不安の日常に、希望とい

う概念が生まれ、そこに物語が生まれたと考える。 う概念が生まれ、そこに物語が生まれたと考える。 う概念が生まれ、そこに物語が生まれたと考える。 う概念が生まれ、そこに物語が生まれたと考える。 う概念が生まれ、そこに物語が生まれたと考える。

論物語を描くこともないと言える。言える。当然彼らには希望という概念はない。勿暮らしていれば安全、安心という感覚しかないと見ていると希望という概念は持っていない。人と見速な人間化が言われるペットの犬や猫でも、

か。 った人間の尊厳的行動と言えるのではないだろうった人間の尊厳的行動と言えるのではないだろう物語って伝えるという行為は、言葉と文字を持

りしてはいけない言葉であろう。葉ではあるが、このことは決して捨てたり忘れたえられる物語となる」とは、もう言い古された言ですべての事実は、叙述されることによって伝

れることはない。であれ歴史であれ、物語とならなければ、伝えらば、詩や小説という物語になる。科学であれ文学なり、物語となる。また心の内を言葉に記述すれなり、物語となる。また心の内を言葉に記述すれることはない

まれるものである。

今更ではあるが、人は論じ合うことでしか、自今更ではあるが、人は論じ合うことの意味や重要性が質かそうだとか言い負かされた等の判定尺度を捨負かそうだとか言い負かされた等の判定尺度を捨論とは、勝負や上下の判定する尺度はない。言い合うとは異なる他人を認めることができない。論じ分とは異なる他人を認めることができない。論じ今更ではあるが、人は論じ合うことでしか、自

生き延びたか誠に不思議に思う。 ら、巨大な哺乳類の化石が次々発見されている。 絶好の餌食になったであろう。現在世界の各地か 先は、やむなく地上に降りざるを得ず、肉食獣の リカ大陸が「人類の発祥地」である。 ら、およそ700万年前、 人類の祖先は、これらの巨大獣と、いかに戦い、 より樹林が減少すると、類人猿であった我らの祖 二足歩行開始をもって人類の誕生とするな あの猛獣ひしめくアフ 気候変動に

の道を歩む事となる。 畜の定住生活に変わる頃、大型獣は急速に絶滅へ ほど前、人類は狩猟採集の遊走生活から、農耕牧 で世界各地に拡散していった。しかしその先々に 最初アラビア半島に定着し、のち急速なスピード は、巨大な獣がひしめいていたが、今から1万年 百人の小規模で、7万年前、アフリカを飛び出し、 すべて黒人であった我らのご先祖は、わずか数

しみじみ思う。 生存の術を獲得し、よくぞ生き残ってくれたと、 はあるが大脳を膨らまし、石器や言語が発達して、 鉤爪)が、何一つあるじゃなし。しかし、徐々にで 「木から降りたサル」は、生来の武器(角や牙や

色々調べてみると、なんと今から30万年前頃から ばかりいる「受け身」だけであったろう。しかし ている。巨大なイタチの類、牛ほどもあったハイ あの恐ろしいサーベルタイガーなど完全に駆逐し 1万年前頃にかけて、猛烈な反撃に転じている。 ナなどに撃ち勝っていった。 人類の祖先は、初期の中は猛獣から逃げ回って

大型獣が滅亡した原因は、勿論、 気候変動によ

> 器を駆使し、集団で襲い、倒していった事も大き 弱い裸のサル」が、遂に「投げ槍」など強力な武 る植生(食性)の変化が主体であろうが、あの「か な原因であったと思われる。

の手を差し伸べるべき…と、良識が芽吹き、反省 き、絶滅の危機に追いやった動物たちに厚い保護 れている。そこで人類は、やっと己の独善に気付 の境地に至った。 の活動により、食物連鎖のシステムが、乱れに乱 など大型のネコ科の動物が絶滅寸前である。 しかし今、駆逐の度が強過ぎたというか、 人間 雪豹

を絶つ目的)で、1870年にはわずか 50頭にまで より、現在は絶滅の心配はなくなった。 減少した。やっと「絶滅」に気付き、保護政策に の趣味としての狩猟(農耕をやらないインディアンの食糧 に白人が侵入する以前は、6千万頭も生存。 アメリカバイソン(野牛・オス最大パー)は、 白人 北米

たのに1914年絶滅してしまった。 として、渡りの時には空が真っ暗になるほどだっ 滅してしまった。美味のため食用・羽毛・飼肥料 れたが、無制限乱獲により、わずか 5 年ほどで絶 南北に移動する「旅行鳩」は、推定 50 億羽と言わ しかし、鳥類史上最大数と言われた北米大陸を

ない。他の種を絶滅させて良い何の権利も存在し まった。人類も、単なる自然の一種の動物に過ぎ 生物の楽園を荒らし廻る「非道の輩」と化してし ない事に、遅まきながら気が付いた。 人類は、過剰人口となり、むしろ、地球という

破壊してはいけない。身近かの便利のために、植 という概念をしっかり頭に入れ、これ以上環境を 今我々は「地球は未来の子孫からの預かり物」

> 物に進化していく事やら、心底、案じられる。 その毒饅頭を脳天に頂く人類は、将来、どんな怪 何のために膨らまし続けているのか。人類の大脳 落ちの文明進化を遂げる人類の大脳とは、一体、 でも、目先の利益を追求するために、無謀で片手 海から陸に上がってもDNAが破壊されずに生き の有害な紫外線を吸収してくれるお陰で、生物は、 らぬ愚かな文明進化である。オゾン層が太陽から して、「皮膚がん」が増える始末。正に身の程を知 冷房装置から漏れ出たフロンガスなどにより破壊 物が何億年もかけて作り上げてくれたオゾン層を 続ける大脳を、私は「毒饅頭」と名付けている。 は、今でも拡大の暴走を続けている。その暴走を ていられるのだ。そういう基本原理を無視してま それゆえ、2世紀以後の子孫から見たら、20~

を考えない超愚劣行為と言える。 と映るだろう。理性を失った、自国の経済発展第 一主義のみみっちい縄張り根性など、人類の未来 発展など、正に種の寿命を短縮させる「犯罪行為」 21世紀の先祖が競って成し遂げた「機械文明」の

の CO₂ 排出量の17・9%を占め、 ガキみたいな寝言をほざいている。米国は全世界 え温暖化防止のためのパリ協定から離脱すると、 鉱労働者の雇用喪失…という発想である。 それゆ デッチアゲの空論だと息巻いている。それは浅慮 1%に次ぐワースト2位である。 38%だから責任は真に重い。 に過ぎなく、火力発電による CO2 増を抑えれば炭 アメリカのトランプ大統領は、 地球温暖化は、 両国合わせると 中国の20・

囲の雇用喪失を防ぐために、人類・いや全生物の 未来を不安定に陥れるようでは、世界を牽引する この世で人情を重んじる事は重要だが、

る現実に、目をつむってはいけない。災害や低地浸水により、膨大な被災者を出してい指導者とは言えまい。世界中、温暖化のため豪雨

なければ、とんでもない事になる。もっと緩める事だ。この辺でしっかり軌道修正しさせたかったら、近視眼的機械文明の進化速度を、上に見事であった。それゆえ人類という種を永続上信見事であった。それゆえ人類という種を永続ル首相のトランプに対する突っ張りは、高安関以イタリアでのG7サミットで、ドイツのメルケ

まったい。 しかし情報通信の進歩は、私もこの原稿を電子 しかし情報通信の進歩は、私もこの原稿を電子 といり見利なものは、ずる賢い者にとっては、サイ いう便利なものは、ずる賢い者にとっては、サイ いう便利なものは、ずる賢い者にとっては、サイ いう使利なものは、ずる賢い者にとっては、サイ いう使利なものは、ずる賢い者にとっては、サイ いう使利なものは、ずる賢い者にとっては、サイ いう使利なものは、ずる賢い者にとっては、サイ

は、2%足らずとも言われる。それほど大型肉食ら、現在の主としてネコ科の肉食獣が狩る肉の量とした人から原人へと進化する30~20万年前の頃アフ人から原人へと進化する30~20万年前の頃アフルの猛獣だらけのアフリカを生き抜いてきた。猿や 現は殆ど無防備の体形で、獣道(けものみち)を 人類は殆ど無防備の体形で、獣道(けものみち)を

獣は、多く生存していた。

滅への道を歩む。その例を列挙する。に限らず、草食獣も巨大化すると動物は大方、絶り、体が巨大化すると、繁殖率も低下する。肉食で雨が降らず、草が減って草食獣が少なくなった狩猟能力が向上したからのみではない。気候変動大型肉食獣が滅びていった理由は、単に人類の

① スミロドン (剣歯虎=サーベルタイガー)

東新世末(ほぼ1万年前)に絶滅。南北アメリ更新世末(ほぼ1万年前)に絶滅。南北アメリ更新世末(ほぼ1万年前)に絶滅。南北アメリ更新世末(ほぼ1万年前)に絶滅。南北アメリ更新世末(ほぼ1万年前)に絶滅。南北アメリ

しかし南北米大陸には、絶滅はしていないが「ジャガー」がいる。ネコ科で虎やライオン並みの大な顎で食い殺す。人や家畜も襲う。雄ジャガーとな顎で食い殺す。人や家畜も襲う。雄ジャガーとな顎で食い殺す。人や家畜も襲う。雄ジャガーとがはアルマジロ・カピバラ・ナマケモノなど。水泳はアルマジロ・カピバラ・ナマケモノなど。水泳はアルマジロ・カピバラ・ナマケモノなど。水泳はアルマジロ・カピバラ・オー」もいる。食性きさ。同属で「ブラックジャガー」もいる。食性きさ。同属で「ブラックジャガー」もいる。食性きさ。同属で「ブラックジャガー」もいる。食性を含いる。

②メガテリウム(大型ナマケモノ)

③ ウマ (ウマ目・ウマ科)

とバカである。

現生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会関生のウマ科は3属(ウマ・ロバ・シマウマ)。社会

という。
という。
戦時中、東北地方の農耕馬が軍用に徴用され、
戦時中、東北地方の農耕馬が軍用に徴用され、

乗っているウマは、ヨーロッパ白人が船で運び込保護されている。なお、西部劇でインディアンが持ち込んだ小型のウマ。現在25000頭ほどがげ出したもの。北米のムスタングはスペイン人が野生的に見える数種は、全て家畜化された馬が逃野生のに根界中に本来の野生のウマは存在しない。

れている。 か内の、何かが北米の草には不足し、体が大きくの内の、何かが北米の草には不足し、体が大きくの内の、何かが北米の草には不足し、体が大きく由は、ウマの必須アミノ酸(別掲「風の呟き」で説明)

④ ヤベオオツノジカ (温帯性・日本固有種)

表示を残す結果となった。 生存に不適であるが、雌の好みで大きなものが選った。クジャクの雄の尾羽や巨大すぎる「角」は、がいても外れず、そのまま死亡する例など多数あがいても外れず、そのまま死亡する例など多数あ最中絡み合ったり、木の枝に引っかかり、どうもが原則だが、大角鹿はその巨大な角が戦いの進化は、生存に有利なものが生き残るというの進化は、生存に有利なものが生き残るというの

⑤ ケブカサイ (毛深犀・奇蹄目・サイ科)

⑥ ナウマンゾウ(アジアゾウの亜族)

422。根本直径15㎝。名前の起源は、ドイツ人の脂肪発達。全身長毛に覆われていた。雄の牙は2・ジアゾウと近縁。 肩高3点、氷河期に適応し皮下日本列島に65万年前~1万5千年前に生息。ア

ゾウの1種と考えられている。 に生息していた「ムカシマンモス」は、ナウマンでも、また北海道でも発見。縄文人の狩猟対象ででも、また北海道でも発見。縄文人の狩猟対象で原野尻湖で化石大量発見。のち、東京地下鉄工事 旧東京帝大ナウマン教授の研究報告に因む。長野

⑦ マンモス (ゾウ目・ゾウ科・マンモス族)

り、最小は肩高120 cm・体重360kg。 4点。現在のインド象に類し全身長毛に覆われる。 息。巨大な牙が特徴で最大5・2点。肩高は最大息。巨大な牙が特徴で最大5・2点。肩高は最大

と言われる。 と言われる。

現生象の象牙との区別が簡単にはできないため、
中スの象牙が日本では印鑑などに使われており、
ちゃんが生まれるはず…と張り切っている。また、
ちゃんが生まれるはず…と張り切っている。また、
ちゃんが生まれるはず…と張り切っている。また、
ちゃんが生まれるはず…と張り切っている。また、
ちゃんが生まれるはず…と張り切っている。また、
なお、氷漬けのマンモスの債体から新鮮な細胞

密輸は後を絶たない。

*

幅の関係で今回はこの辺で筆を置く。わりで滅亡した動物は他にも多数存在するが、紙て大型哺乳類の滅亡に関して述べた。人類との関ー以上ユーラシアと南北米大陸を中心に、主とし

すべきであろう。

「滅亡」に関し、肝心の人類はどうなのか?

「滅亡」に関し、肝心の人類はどうなのか?

「滅亡」に関し、肝心の人類はどうなのか?

の恨みを考えた事があるのか?
根絶やしにするまで乱獲の数々。ウナギやマグロ物は永遠に生き続けたいのだ。更に野生の動物を物にか遠に生き続けたいのだ。更に野生の動物をか?野生世界の弱肉強食とどこが違う?全ての生かの大類はこんなにも家畜を殺しまくってよいの家畜の「霊魂」というものを考えた事はあるの

人口の過剰増加は「滅亡への一里塚」。しき人類は、戦争で己の安泰を確保しようとする。からず」。人口が増えれば縄張りが接触する。浅ま平家物語ではないが、「盛者必衰・奢れる者久し

のか…と、強く主張したい。もう少し慎ましやかな反省が、是非必要ではないきである。万物の霊長と言われ続けたいのなら、さの追求と同時に、倫理的成長に全力を尽くすべを、根本からコントロールすべきだ。物質的豊かもし人類に知性があるなら、しっかりこの問題

地域に眠る埋もれた歴史(28)

木村 進

茨城廃寺・舟塚山古墳方面 $\widehat{1}$

り古くからの遺跡が眠っている。 霞ヶ浦(昔は内海) ってみて感じたことなどを交えて紹介していきま 郡衙が置かれていました。今回はこれらの地を巡 2番目に大きな古墳があり、また古代の茨城郡の から恋瀬川に沿って少し入った場所には東日本で 高浜と石岡市街地との間にはこの地方でもかな

1、茨城廃寺 (バラキハイジ)

り口がわかりにくい。この交差点のすぐ脇にある この辺りになるが、ここから先に案内板がなく入 ぐ先に「茨城廃寺跡」の看板がある。 細い道(小さな車は通れるが、大型車は無理)を進んだす 浜街道」にぶつかる。 茨城廃寺の案内板の方向は 号をそのまま横切ってさらに直進すると通称「高 石岡駅を降りてすぐ左にまっすぐ進み、 国道 6

国分寺に先行し、7世紀中葉から後半と考えられ ています。伽藍配置は、塔と金堂が東西に並び、 それぞれの郡には郡衛(ぐんが)が置かれ、 清涼寺などにも残っているようです。 らにその先の道を曲がって竹やぶなどの脇道を進 発掘調査でその規模が明らかにされ、建立時代は、 した。茨城廃寺跡は昭和 54 年から 3 次にわたる れ寺院も存在したようです。石岡地方は、 律令時代の常陸国は、11の郡に分かれていました。 石」が残されています。茨城廃寺の礎石はこの他、 な神社があり、 むと坂を下ったところに「小目代公民館」と小さ この辺り一帯は畑と住宅などになっている。 市指定有形文化財「茨城廃寺の礎 石岡の地に郡衙がおかれていま それぞ 古代に さ

> 北に講堂が位置している法隆寺式で約1町半四方 の規模をもっていることが明らかになりました。



茨城廃寺の発掘調査塔 北に講堂が位置している法隆寺式

います。 また遺跡の範囲や内容を確認するため、 建立される前の寺院は茨城郡ではここだけです。 重なものといわれています。 5次の発掘調査も平成23年度より随時実施して 「茨寺」の墨書銘があり寺院名が残されている貴 発掘された土器の中には「茨木寺(ウバラキデラ)」 国分寺・国分尼寺が 第 4 次・

これがあるので、地震にも五重塔は今まで倒壊し

築の塔の芯柱の上部に乗せられた重りです。

近注目の東京スカイツリーにも採用された古代建

巾着石(きんちゃく石)

置かれています。言い伝えられた説話では茨城童 中に110㎝角ほどの「きんちゃく石」という石が 子が里人を捕らえるときに使った巾着袋の根締め 石であるとされています。実際は茨城廃寺の五重 萬福寺の左、脇道を20m程入っていくと、畑の

ちゃく石」という看板があるが、この看板はこの

を有する。と書かれています。畑のすみに「きん

いというので自ら作って立てられたそうです。

土地の地主の方が、

訪ねてこられる人がわからな

員会)によると、花崗岩製、平面正方形で一辺 る大切な品です。「茨木廃寺跡 I 」(石岡市教育委 廃寺の石製露盤とするならば、歴史的な価値のあ なかったと言われています。でも、この石が茨城

110

厚さ 35

cm で、

中央に径 45

㎝の円形貫通孔

す穴が開いている石)と考えられています。 塔の露盤(塔の一番上で方形の屋根を押さえ、飾りの相輪を通



巾着石

茨城廃寺は国分寺よりも前に建てられた寺といわ

茨城郡の郡寺と考えられています。

創建は60年だとされています。 隆寺は聖徳太子の命令によって建てられたもので ラブが設置した説明版と模型 貝地にある「平等寺」の横に地元のロータリーク ています。そこに書かれていた塔の断面図を見る さて、この五重塔の露盤についてはこの近くの 法隆寺の五重塔を模したもののようです。 (レプリカ) が置かれ 法

バランスをとり、 その後、 ランスさせています。地震にもそれぞれが別々に 屋根がありませんので、この露盤(石)で重さをバ 3段目は…とくると、一番上(1段目)はその上に キで、この芯柱に乗っかっているのは一番上の相 最も大きな要因はこの芯柱が樹齢千年以上のヒノ これはいろいろなところで説明もされていますが 以上も地震にも耐え、木が反ったり腐ったりしな しかし、この五重塔が木造なのに何で1300年 以上が経つ、日本最古の木造建築とも言われます。 います。こんな昔に、すごい技術ですね。またヒ 一番下(5段目)の屋根の瓦の重さは、その上の1 は芯柱には全く荷重がかかっていないようです。 輪だけで、周りの五重塔の骨組みや屋根、瓦など いで今も美しい姿を見せてくれるのでしょうか。 ど皆燃えてしまったとも言われているようです。 しかし、日本書紀では670年に火災にあい、ほとん 4 段目の屋根の重量で「やじろべえ」のように 直ぐに立て直されたとすると1300年 どこかに力が集中しないようになって 4段目は1~3段目で、また

の最も古いものは7世紀後半のものだと言われ では8世紀前期頃となっていますが、出土した瓦 ています。そうすると、この法隆寺が再建された ょうか?ここに書かれたロータリークラブの説明 た茨城廃寺(茨木寺)はいつごろ建てられたのでし 伝わっていると言われています。ではここにあっ さて、この法隆寺の建設には百済の人の技術が (670~700年頃)とほぼ一致します。

あり、 バラ 地にあると考えられます。この候補地としては友 城の名前の発祥は、後から那珂郡に編入された土 で、府中(石岡)の地に移したと読み取れる記述が ます。しかし、茨城郡は郡が成立した時には、も り茨城の名がついた。」という説明が書かれてい ので彼等は穴に入れず討ち取られた。このことよ さかのみこと)が住居穴を茨(うばら)でもって塞いだ すばしっこい、一般人とは全く違った生活をする の道路沿いに「茨城県の茨城の地名発祥の地」と らき」です。 部 (笠間市) の小原付近が有力と考えられます。 オ っと北にあり、その場所が那珂郡に編入されたの 郡(かしまのこおり)に岩窟を掘って住み猟のように いう看板が立てられています。看板には、常陸風 力候補地でもあり、高浜街道沿いのスーパーの前 土記に書かれている内容を紹介しており、 一族佐伯がいて、これを大和朝廷軍の黒坂命(くろ 茨城廃寺の寺の名前は「ばらき」または \downarrow 茨城という名もその当時からあるため、 ウバラ → ウバラキ → 茨城県の名前の発祥の地としての有 イバラキ 「香島 「うば 茨

なのかはよくわかりません。多氏の一族で、 また黒坂命(くろさかのみこと)が何時ごろの人物 美浦

北条の多気山で常陸大掾(だいじょう)してこの常陸 は攻め込まれない城であったものと考えられる。 ヶ浦の水が近くまで来ていたのではないかと思わ

少し高台

(舌状台地) に建っており、

湖側から

ケ浦の合流点に近く、城があった当時はもっと霞 平城といわれているが、城の裏手は恋瀬

別と霞

にも応用されたというので、驚きです。

を知っていたのです。

露盤は今回のスカイツリー

ノキが一番変形もなく、長い年月でも耐えること

れて埋葬されたと伝えられています。 たりを日高見国(ひだかみのくに)と呼んでいた)に棺が戻さ つわれさん)で亡くなり、美浦村(この頃は美浦村あ 村から石岡の方に攻め入って、日立市の堅割山(た (常陸国風土記)

3 外城(とじょう)

社の隣のビニールハウス目印となる。 少しわかりにくいがこんもりとした茂みがあり神 道が右に曲がるがまっすぐ進んでも神社に出る。 に曲がる道がある(案内板がないので注意)少し進むと 6 号国道より高浜街道への道を少し進むと右



札掛神社:かつての外城の城主である札掛氏 をまつる神社 (大掾氏の家臣)

国を治めていた多気(平)大掾氏は小田氏の換言に国を治めていた多気(平)大掾氏は小田氏の換言に国を治めていたので馬場氏ともいうであった。 1193 年馬場に住んでいたので馬場氏ともいうであった。 1193 年に常陸大掾となった大掾資幹(すけもと)は、水戸に常陸大掾となった大掾資幹(すけもと)は、水戸に常陸大掾となった大掾資幹(すけもと)は、水戸に常陸大掾となった大掾資幹(すけもと)は、水戸に常陸大掾となった大掾資幹(すけもと)が、かわりに大掾職をより頼朝によって失脚となり、かわりに大掾職をより頼朝によっていた。

ない。 城(ばらき)の地に城を築いたのかも記録はあまりようになっていたかは定かではなく、何故この茨よの間、府中城が建てられた旧国衙の地がどの

外城跡の現地看板

国衙において政務をとっていた大掾資幹(すけもと) 堀・土塁の一部を残すのみである。 どの名前が見え、天正18年 (1590) の大掾氏滅 期に書かれた地誌類には、大掾氏が府中城に移っ こちらの城は外城(とじょう)と呼ばれた。近世後 拡張して府中城を築き、本拠をそこに移したため、 大掾氏の拠点として城郭も整備され、高幹の子詮 名前が使われていたかどうかははっきりしない。 の起こりといわれます。しかし、当時から石岡の の地に居館をかまえた。これが外城 (通称:石岡城 は、鎌倉幕府から府中の地頭職をあたえられ、こ つての城主であった札掛氏をまつる札掛神社と 亡とともに外城も廃城となっている。現在は、か たあとの城主として、札掛兵部之助・田島大学な 建保2年(1214) 常陸大掾を継承して、常陸 (あきくに)の代になって、大掾氏は常陸国衙を

(看板には石岡城という名前が何度か出てくるが根拠がはっきり石岡市教育委員会 石岡市文化財保護審議会

しないためここでは割愛した)

不明だが、何かのヒントになるかもしれない。 で移した時の時代背景として何か関係があるかはて、詮の一字を賜り詮国となったものである。城名前は文幹といった。足利将軍義詮に従い功をたた「幹(もと)」の字をやはり踏襲していて元々のを築いた大掾詮国(あきくに)は大掾家に踏襲されを築いた大掾詮国(あきくに)は大掾家に踏襲され

民族芸能の話(2) 木下明男

タカクラ・テル先生から教えて頂いたお話しです。について紹介いたします。日本音楽の話も今回の民族芸能の話も、活音の中で学んだ(日本音楽の話)に次いで、(民族芸能の話)

私は昭和40年代、品川区の大企業 (NIKON) で働いていました。 会社に入社した頃は、1960年の安保闘争の真っただ中でした。 持っている諸要求を実現させ、明るく働ける職場になっていました。諸々のサークル活動も盛んでした。私も其の頃先輩から誘わた。諸々のサークル活動も盛んでした。私も其の頃先輩から誘われ労音の活動に。

それから間もなく、組合弱体化政策の一環として、新賃金制度 (会社職制の強化) 導入が計られ、組合の分裂策動が行われました私は、社会のあり方に興味を持ち始めました。そんな折り、した私は、社会のあり方に興味を持ち始めました。そんな折り、した。北海道函館労音との交流会に参加したのもこの頃で、生涯した。北海道函館労音との交流会に参加したのもこの頃で、生涯をかけて音楽運動に参加するきっかけにもなりました。そして、何のために音楽運動を進めるのかの勉強が始まります。そんな時で学んだテキストから…。

(2) 民族の本質

的な民族理論を持っています。 持っており、マルクス・レーニン主義だけが科学 労働者階級だけが民族問題を正しく解決する力を められ、今のように社会主義が世界体制となるに 正しく解決する道が具体的に示されると同時に、 革命とソ連の社会主義建設を通じて、民族問題を 初めて科学的な民族理論の基礎が置かれ、 な民族理論を生み出すこともできませんでした。 を本質的に解決する事が出来ず、従って、科学的 つれて、それが世界人民全体の方針となりました。 レーニン・スターリンによって、一層理論的に深 マルクス・エンゲルスの社会主義理論が生まれて、 れるかと言う関係に置かれていましたから、これ つの民族が他民族に対して圧迫を加えるか加えら 資本主義社会では、民族問題は、何時でも、一 ロシア

に言っています。民族とは、マルクス・レーニン主義の民族理論は次のよう

- (一) ことばの共通性
- (1) 領土の共通性
- 三) 経済生活の共通性
- 理の共通性(四) 共通の文化を持つ所からくる、特別な心

この四つの共通性を基礎に、歴史的に作り上げるな発達とともに、近代的な民族体(ナロードノスチ、土俗的な民族の基礎となる民族体(ナロードノスチ、土俗的な民族の基礎となる民族体(ナロードノスチ、土俗的な民族の基礎となる民族体(ナロードノスチ、土俗的な民族の要素が発達するにつれて、この民族体が次主義的要素が発達するにつれて、この民族体が次主義的要素が発達するにつれて、この民族体が次主義の要素が発達するに、近代的な民族体(ナロードノスチ、土俗的な民族の基礎となる民族体(ナロードノスチ、土俗的な民族体(ナロードノスチ、土俗のように言っています。

「……ロシア史の新しい時代(17世紀)になって、

他ならなかった」(「人民の友とは何か?」1894年) 初めてそれらの州や地方や公国が一つの統一体におって引き起こされたものでもない。それは、各地方の間に強まりつたものでもない。それは、各地方の間に強まりつたな地方市場が単一な全ロシア的市場に集中す小さな地方市場が単一な全ロシア的市場に集中すったな地方市場が単一な全ロシア的市場に強まりつたな地方市場が単一な全ロシア的市場に強まりつたな地方市場が単一な全ロシア的市場に強まりつた。この過程の指ることによって、引き起こされた。この過程の指名ことによって、引き起こされた。この過程の指名ことによって、引き起こされた。この過程の指名によって引き起こされた。この過程の形成に関するとは何か?」1894年)

三回目の学習会を迎えることは、本当に嬉しい。

って欲しいと願うからだ。考える人々であって欲しい、勉強し合う仲間であそれは、この会が楽しい場だけに止まらず、湖を

頭から離れない心配を抱えていた。 で参加者は知らない世界に耳を傾け、興味を持っていけたら、生活の中で生かされると思う、と勢い込んで取り組んだが不安は付きまとう。不特っていけたら、生活の中で生かされると思う、ととで参加者は知らない世界に耳を傾け、興味を持とで参加者は知らない世界に耳を傾け、興味を持っていた。

「ふるさと風」の会員として活躍されている菅原茂美先生。「NPO玉里しみじみの村」のリーダ原茂美先生。「NPO玉里しみじみの村」のリーダ原茂美先生。「NPO玉里しみじみの村」のリーダーの斎藤広行さん。「土浦自然を守る会」で、土浦・戸藩玉里御留川」をまとめられた池上和子先生。みなさん現在は反野県伊那で活動されていて「水戸藩玉里御留川」をまとめられた池上和子先生。みなさん現在は勿論、過ぎた年月の中で豊かなみなさん現在は勿論、過ぎた年月の中で豊かながちの方で、後で思うに簡単にお願いした自分を貼ずかしいと思いながらの出発だった。

人数、喜びの中に始まった。 いよいよ当日、参加者は集会室の席をうめる多

ついての報告玉里しみじみ村の霞ヶ浦を中心とした活動に

で始まった頃だった。十八年三月から任意団体「玉で料理を作ったり、「まちづくり」の作業が手探りで集まった人々は多く、懐かしい姿もあった。自めていこうという呼びかけから始まった。声かけによる活動だったが、まちづくりを住民主体で進による活動だったが、まちづくりを住民主体で進

いう形で活動が始まった。

いう形で活動が始まった。
になった。祭りのない玉里に「うさぎまつり」と年一月から特定非営利活動法人「玉里しみじみ村」サンス」と出合ったのもこの頃だった。平成十九主体になった。ふるさと風の前身「ふるさとルネ主体になった。ふるさと風の前身「ふるさとルネージをになった。が郷の切り絵作家滝平二郎氏の作品を生かした活動がの切り絵作家滝平二郎氏の作品を生かした活動がの切り絵作家滝平二郎氏の作品を生かした活動が新たな出発をし、故郷里しみじみの村」の活動が新たな出発をし、故郷

丁原に他団体との協働の広がり、東日本大震災への復興支援と盛んに行われてきた。常に霞ヶ浦との係わりの中での活動が主であった事を思い、美の係わりの中での活動が主であった事を思い、美の係わりの中での活動が主であった事を思い、美の係わりの中での活動が主であった事を思い、美のにしている。

ほしいとPRしていきたい。桜やコスモスを愛でると同時に缶一個二個拾って心に決めた。又、川中子、下玉里、高崎の人達も「御留川の会」も一度二度はやってみなければと「皐子!~~~斎藤さんの話を貰いて、 乖だち

取り組み 出浦の自然を守る会の生物多様性保全部門の

性保全部門に分かれて活動していったそうだ。さの活動をする環境教育部門と霞ヶ浦の生物多様の紙でカッパの人形を作ったり、自然の素晴らし取り上げ誕生した市民団体の事。絵本づくりや葦中る会は、1971年に県で初めて環境問題を

状態だという。2006年から漁師の仕掛けた定れているとの事。二枚貝はどんどん減少している理由で多様性が失われたといってもいい、といわ生活を豊かに支えてくれていた。今、いろいろなしてくれている働きや地域に育った文化は人間の電ヶ浦流域はきれいな水や食物を供給サービス

をしているとの紹介もあった。 鑑、小冊子、本など発行したり、学会誌への投稿時だった。長年の記録を纏めたパンフレット、図時だった。長年の記録を纏めたパンフレット、図前に外来魚が多くなったとのこと。萩原さん、須的に外来魚が多くなったとのこと。萩原さん、須ばてもらっている。分類、計算、計量をし、試食置網(張り網)に入った魚類を一般の人に引き上置網(張り網)に入った魚類を一般の人に引き上

う。 している人にも漁場をきれいにと声かけしていこ 在の漁師さんや釣人との交流も必要だし、釣りを 私達は過去の漁場に立ち、道を歩いてきた。現

③ 天狗党西上と玉里御留川

茨城で結成された天狗党の足取りを記した絵図、 茨城で結成された天狗党の囲布陣を元に元治元年 天狗党西上略図、天狗党包囲布陣を元に元治元年 をの人達への獣納米として川守宅へも無心があっ その人達への獣納米として川守宅へも無心があっ その人達への献納米として川守宅へも無心があっ を、滝平主殿が亡くなり神主がいないので後役を た。滝平主殿が亡くなり神主がいないので後役を た。滝平主殿が亡くなり神主がいないので後役を た。滝平主殿が亡くなり神主がいないので後役を た。滝平主殿が亡くなり神主がいないので後役を た。滝平主殿が亡くなり神主がいないので後役を なま方には、鯉の献上をしなければならない状況、 さま方には、鯉の献上をしなければならない状況、 さま方には、一般の献上をしなければならないがと改 立場。それぞれが世の中を構成しているのだと改 めて思った。

けに時間がかかって、ゆっくり出来ないまま別れ

はその足で小川アピオスの会場へ向かわれた。ご日集まった人達は受け取ってくれたろうか。先生人々。目標に向かって歩き続けたことだろう。今る長野の道を、私達の茨城から歩き続けて行った中で先生はまとめてくださった。先生の住んでい耶無耶な時間を埋めることも出来ず過ごしている耶無取な時間を埋めることも出来ず過ごしている

免なさい。

4 遥かなる旅路

りなく申し訳なかったが、許して頂けるとしたら、 て真実と感じ気持ちがよかった。最後、時間が足 聞きした話しでも新鮮だった。佛教の話しと重ね 史とわくわくしてくるお話だった。風の会で、お る。そういう私達に太陽系の誕生から生命が誕生 じる様々の出来事で、又悩んだり嘆いたりしてい とのみで総てを判断して生きている。そこから生 送りする際、小池さんの心遣いで夕陽が傾いてい いからの話などしておられた。又、夕方先生をお 山口さんが先生を尋ねてこられて、若い日の出会 していく長い時の流れと、自然の営み、進化の歴 始まった。どうしても私達は今のこと、自分のこ 日また昇る太陽に希望を込めて走ったという。 く霞ヶ浦の美しさと、遠い日の御留川を偲び、明 盛り沢山の勉強ご苦労さまだった。帰りは片付 長い時間をお待たせしてしまった先生のお話が

きなど出た。
大仕事をしたので反省も多かったが、一つ二つ大仕事をしたので反省も多かったが、カップは余計な塵になる。先生方へのお礼の事はもっと考えるべきを茶碗がよい。ペットボトル、コップは余計な塵になる。 先生方へのお礼の事間、廊下利用はよかった。 だん事をしたので反省も多かったが、一つ二つ

に是非お願いしよう。 今回都合が悪かった菊池さんには、今度の機会

「大規模公共事業と私たちの暮らし」"ウナギ明日濱田先生のお話しを聞きに行く。

とシジミが消える日常

おこう。 先生にも後日、是非話して頂けるように考えて

いるのだと教えられた。ながっていて私の生活から出て行って戻ってきてと、古文書に学ぶこと、大自然のこと、どれもつと、古文書に学ぶこと、大自然のこと、漁のこく回つくづく感じたことは、塵のこと、漁のこ

県指定文化財(23)

兼平智惠

われます。の車もなくなりほとんど完成となってるように思めするなの間とれば完成となってるように思新石岡駅西口側は工事関係の皆さんや工事関連

れはちよっと

中に一部銀色の手すり風が設置されています。こが茶色の手すりに囲まれています。その手すりのが茶色の手すりに囲まれています。その手すりのが、展示館、交番、そしてタロー・ブロンズ像が所、展示館、交番、そしてタロー・ブロンズ像がある。

休息の為の腰掛けになっているそうです。

右の町内です。 交差点より、笠間方面に向って左折間もなくの左八(月)がやってきます。年番町は青木町、香丸おまつり、今年は九月十六(土)、十七(日)、十いよいよあと二か月余り、待ちに待った石岡のいよいよあと二か月余り、待ちに待った石岡の

のようになるでしょう。
今年の新駅前広場での獅子舞や山車の競演はど

勇壮と華麗な演技に胸ふくらませています。

今回の県指定文化財をご紹介します。

○紙本着色 有形 (絵画

平成一七、 十 一 、 二

藝大の大学美術館の入口には「ゆきむら」ではな く「せっそん」です、のタイトルのはいったポス 館に展示中ですとのお答えでした。二日後に上京。 取材に伺った時に、只今東京藝術大学大学美術

る常陸大宮市出身……驚きでした。 現在NHK朝のドラマ「ひよっこ」で知られてい まして、常陸国部垂(へたれ)(現在の茨城県常陸大宮市)、 ありましたが、雪村(せっそん)については、皆無。 た……。石岡市の文化財見逃してしまいました。 残念ながら釈迦羅漢像は昨日模様替えになりまし 恥ずかしながら、雪舟については少しの知識が

武将の子として生まれながら出家して、画業に専 念したという。 戦国時代の画僧、雪村周継(せっそんしゅうけい)、

そのさまを、太く力強い線で描いた衣装の大胆さ 龍。その周囲では風が吹き荒れ、 長いヒゲ。足元をみればギョロッとした目つきの とは中国の仙人。呂洞賓の首の骨が折れるくらい 要文化財・大和文華館蔵。 ピンと伸びた綿密なひげの繊細さにしばし見入っ に仰ぎ見る顔から、斜め上に向ってピンと伸びる 雪村一○○点余りの作品から「呂洞賓図」・ 重 呂洞賓(りょどうひん) 衣装が乱れる、

だしたようなユーモラス溢れる布袋、思わず微笑 立歴史館蔵では大きなお腹を出し、昼寝から起き また「欠伸布袋・紅白梅図」室町時代、茨城県

> から注目したい。 に心豊かな個性溢れる絵を生み出した雪村にこれ 品格のある山水画の数々、室町時代という乱世

雪村は同神社に「神馬百疋(匹)」を書いて奉納、 ら一部抜粋させて頂き、ご紹介したいと思います。 追う」を手にする事ができました。この著の中か 巻」の最後に雪村の款記(かんき)がある。ここに や名画に接して自分の表現を磨いたとされている。 津や鎌倉、奥州の各地を放浪し由緒ある寺で名僧 竹氏の血筋を引く武門の家に生まれた雪村は、 をおき、常陸国を統一した戦国大名佐竹氏につい 資料が、栃木県鹿沼市の今宮神社に伝わっている。 て研究の深い冨山章一氏の著「雪村 「源周継舟居斎」とある。 五四六(天文一五)年六月の日付がある「百馬図 雪村がこの佐竹氏出身であることを彷彿させる 源義家の弟、義光を家祖とする源氏の武将、 石岡市図書館にて、 常陸太田市に本拠地 謎の生涯を 会 佐

佐竹氏の支配地域、こうした事柄をふまえると「源 常陸大宮市、この一帯は当時「奥七群」と呼ばれ、 陸国」のことで戦国時代、常陸国で「源氏」とい 氏の出であることを雄弁に物語っている。しかし、 ことができる。 に続いて「部垂の人なり」とある。部垂は現在の えば思い浮かぶのが佐竹氏であり、さらに「常州」 これだけでは特定できない。次に注目される点は 「本朝画史」にある「常州」である。常州とは「常 雪村が源周継と署名していたことは、雪村が源 | の「源」は、 佐竹氏を意識した表記とみる

と冨山章一氏はいわれている。 雪村が佐竹氏の出身であることは動かしがたい 雪村が佐竹氏の出身であることに興味深く拝読

> 城県の皆さんはご存知でしょうか。 の重要文化財指定を受けている。ということを茨 しました。それに雪村の現存する作品中九点が国

・こぼれ落ちる緑を浴びながら登る 智惠子

江ノ島岩屋

と第二岩屋 (奥行56m) から成っています。 かけ波の浸食でできた岩屋は、第一岩屋(奥行1218) 江ノ島の岩屋に初めて行ってきた。 長い年月を

辺施設を一新し、平成5年4月から再開されてい 昭和4年以来、長期閉鎖されていましたが、周

現したと伝えられ、 した。弘法大師が訪れた際には弁財天がその姿を この岩屋は、古くから信仰の対象とされてきま 源頼朝も先勝祈願に訪れたと

ることが出来ます。 示物があり、江ノ島の歩んできた歴史と文化を見 照明や音響で演出された洞窟内には、 色々な展

しめます。 その向こうに富士・箱根・伊豆方面の景観が一望 できます。海の静かな日には、 全長 18 mのオープンスペースからは相模湾と 違和棚の散策を楽

を勧請したのが始まりといわれています。岩屋に い伝えも残されています。 吹き抜ける冷たい風は富士山に通じているとの言 欽明十三年(552年)に、欽明天皇の勅命で神 第一岩屋は、江ノ島神社発祥の場所といわれ、

が、訪れる人を待っています。信仰の地として栄え、洞窟内に姿をあらわした龍説」が紹介されています。江ノ島は古くから龍神説」が紹介されています。江ノ島は古くから龍神第二岩屋は、江ノ島生まれの「天女と五頭龍伝

か。を見つけました。亀石は竜宮城へ向かうのだろうを見つけました。亀石は竜宮城へ向かうのだろうを見つけました。

今度は、猿島に行ってみようかと思っています。その日は暑さも加わり大層疲れる一日となった。江ノ島神社へは、かなりの上り下りに道が続き、

お付き合い頂けますことお願いいたします。お世話になりました。これからもどうぞよろしくることが出来ました。化粧師の庭山さんにも大変しぶりの野口さんのオカリナでの舞、楽しく演じにいらして頂き、嬉しいご声援を頂きました。久一 六月の風の会 10 + 1 年祭の公演には、大勢の方

【風の談話室】

生命の河を遡り(5)《特別寄稿》

田島早苗

時の花嫁

満ち溢れていたものだ。 人々が入れ替わり立ち代わり商談に訪れ、活気にいこの間まで、立派な母屋が建っていて、多くのを眺めていた。草が伸び放題の広い土地には、つ留吉は玄関わきの、小部屋に座ってぼんやり外

最初に工場に付随して建てた小さな家は、母屋

出の部屋だった。
出の部屋だった。
は、事務所として使われ、留吉が家にいる時は、が座っている茶の間は、工場が稼働していた時にが座っている茶の間は、工場が稼働していた時にが完成した後は、織子たちの宿舎に成り、今留吉

ませることが出来たのだった。の御大尽に買ってもらい、何とか借財の整理を済の神大尽に買ってもらい、何とか借財の整理を済下村織物をたたんだ時、立派な母屋は知り合い

した日々を送っていた。

・
の中で亡き登代に話しかけたりしながら鬱々とがの中で亡き登代に話しかけたりしながら鬱々と収めることが出来た留吉は、しばらくは、惚けた収めることが出来た留吉は、しばらくは、惚けた

の一面だった。

留飲を下げている、それもまた子供みたいな留吉で「江戸の敵を長崎で討った」気になって少しはが、孫たちを連れてご機嫌伺いに来た時、孫たちが、孫たちを連れてご機嫌伺いに来た時、孫たちが、孫たちを連れてご機嫌伺いに来と時、孫たちが、孫たちを連れてご機嫌何いに来と時、孫たちの一面だった。

砂糖を舐めながら、「和子もなめるか?」と言ッと笑う、その祖父の憎らしかったこと。途中で自分の口へ持って行きぺろりと舐めてニヤすくって、「早紀もなめるか?」と差し出しながら、甘党の留吉は自分が舐めていた蜂蜜をひと匙

の数々で盛り上がるのだった。ちゃんの思い出になると、その時の悔しかった話大人になってからも長田家の孫たちは、おじい

そうな笑顔

いながら自分ばかり舐め続けていた祖父の意地悪

を見つけ段々元気を取り戻していった。まう三吉に、日本一の嫁を娶る」と言う生き甲斐そんな留吉だったが「三十歳の大台に乗ってし

を精力的に歩き回り始めた。てはおれぬと、自分の生まれた岐阜市南部の農村大切な跡取り息子の嫁女を、仲人なんかに任せ

れた三吉の嫁取りは難しかった。処でも丁寧にもてなされたが、体が弱く兵役も免人代で財を成した留吉は、村の成功者として何

第二次世界大戦が始まり、当時、赤紙と呼ばれ第二次世界大戦が始まり、当時、赤紙と呼ばれのたたした所へ赤紙が届き、新婚生活を楽しむ暇も無は付した夫と、戦地に赴く前の一日の慌ただしく出征した夫と、戦地に赴く前の一日の慌ただしく出征した夫と、戦地に赴く前の一日の慌ただしく出征した夫と、戦地に赴く前の一日の慌ただしく出征した夫と、戦地に赴く前の一日の荒ただしく婚礼を挙げた召集令状が来る前に、あわただしく婚礼を挙げた召集令状が来る前に、あわただしく婚礼を挙げた召集令状がを

が珍しく無い厳しい時代だった。言われ、人前では涙も見せられない、と言う悲劇言われ、人前では涙も見せられない、と言う悲劇どんなに悲しくても悔しくても、名誉の戦死と

流れだった。 を娶る事など夢のまた夢だったが、これも時代の善昔だったら小さな自作農の三男坊が、豪農の娘

日米開戦翌年の五月に非常時下だけど、内輪で

ら歩いていた。りも小鳥のさえずりも心に留めることなくひたすりも小鳥のさえずりも心に留めることなくひたす吉は、「早く帰って用意をしなければ」と、梅の香ささやかな式を挙げることが決まり、家に戻る留

の生きる道を探すのが常だった。
に分け与える田畑は無く、他家へ奉公に出て自分小さな自作農では、長男が跡を継ぐと、次男三男小さな自作農では、長男が跡を継ぐと、次男三男家の三男坊として生を受けた留吉は、八歳になる家の三男坊として生を受けた留吉は、八歳になるの生きる道を探すのが常だった。

り、商売のコツも自然に身に付いていった。り上がった反物を集める仕事を任されるように成なった頃には、機織りをしている家々を回って織目端の利く留吉は主人に可愛がられ、十五歳に

ていった。

ていった。

なをそつなくこなしながら、留吉は逞しく成長しと話すときの胸のときめきも楽しく、辛い丁稚奉ことの厳しさと、たゆまぬ精神を学び、若い織子ことの厳しさと、たゆまぬ精神を学び、若い織子

で、二歳ほど年上と言うのは全く気にしなかった。 で、二歳ほど年上と言うのは全く気にしなかった。 で、二歳ほど年上と言うのは全く気にしなかった。 で、二歳ほど年上と言うのは全く気にしなかった。 がが必要です」と先ず母親のヒサノを口説き の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを口説き の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを口説き の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを口説き の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを口説き の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを口説き の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを口説き の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを口説さ の助けが必要です」と先ず母親のヒサノを保り返して の助けが必要です」と先が母親のヒサノを目記さ の助けが必要です」と先が母親のヒサノを相談として の助けが必要です」と先が母親のヒサノを得り返して の助けが必要です」と先が母親のヒサノを繰り返して の助けが必要です」と先が母親のヒサノをといる

段々心を開いていった。 美男子で、さっぱりとした気性の留吉に、登代はも確かだった。過去のことを穿り回すことなく、出戻りとも見えぬ美しい登代は、働き者で仕事

の新所帯だった。留吉が独立を許された二十六歳の春、小さな家

日本経済の波に乗って、商売を広げていった。奉公で培った商才を発揮、日露戦争の勝利に沸くお金と、親や奉公先の主人から届いた独立の祝いお金と、親や奉公先の主人から届いた独立の祝い留吉が爪に火を点す思いで貯めたささやかな

のスタ―トだった。 大きな工場と続きに建てた小さな住宅が下村織物大きな工場と続きに建てた小さな住宅が下村織物明治三十九年の春、広大な敷地の真ん中に先ず

を堪えている姿が印象的だった。かす騒音の中で、加代を胎内に宿した登代が、涙か集した織子たちがずらりと並んだ織機を動

成った。 ヒサノに預けられ、祖母の手で育てられることに その年の六月に産まれた加代は間もなく祖母

て家で育てられたのだった。の子供を授かったが、加代の他は、小守娘を雇っの子供を授かったが、加代の他は、小守娘を雇っひたすら働き通した登代は、留吉との間に四人

して離別していた。 登代は最初の結婚で独りの男の子を婚家に残

かも。

後になって登代が呼びよせたのか、一寸やさぐかも。

下を張りまわし、大きな中庭を挟んで奥の部屋がやがて、下村織物は、工場を中心にぐるりと廊

た。 僅か三十年足らずで終焉を迎えてしまったのだっ満帆の船出だったが、時代の荒波に翻弄されて、並び、前の空き地には、立派な母屋も建ち、順風

窮乏生活に耐えていた。
がりません、勝つまでは」の標語を口にしながら、しくなって、食料や衣類も乏しく、国民は「欲し年の間に米国はすっかり立ち直り、段々戦況が厳年の間に米国はすっかり立ち直り、段々戦況が厳

五月の切めだというのこ、とても蒸し書い目だ がさん、少し落ち着いて座っている加代に「お でじっとしていられず「登代わしの選んだ日本一 でじっとしていられず「登代わしの選んだ日本一 でじっとしていられず「登代わしの選んだ日本ー がが初めて報われた気がして天にも昇る気持ち ががある、お前にも見せたかった」と心の中でを の花嫁を、お前にも見せたかった」と心の中をそ がおら、矢張りうろうろと歩き回っていた。 の花嫁を、お前にも見せたかった」と心の中をそ がおら、矢張りうろうと歩き回っていた。 の花嫁を、お前にも見せたかった」と心の中をそ がおら、矢張りうろうと歩き回っていた。

五月の初めだというのに、とても蒸し暑い日だった。戦時下でも流石豪農の娘、黒の紋付衣装にがない。戦時下でも流石豪農の娘、黒の紋付衣装にがなさい」と言い出して周囲の人を慌てさせていがなさい」と言い出して

式を終わらせることが出来たのだった。 式を終わらせることが出来たのだった。 が付いた留吉が「とにかく三々九度の杯が終わって座が白けてしまい、流石にこれでは駄目だと気いればいいの!」等と言われても頑固に言い張ったら、すぐ鬘を外すよう」「まあまあ男親は黙って座ってがけないでしょう」「まあまあ男親は黙って座って

が誕生したのだった。
二人の生活に一本心が通り、新しい下村家の家風広い庭は草一本残さず整えられ、自堕落だった男広い庭は草一本残さず整えられ、自堕落だった男

った留吉の孫自慢は止まること知らず。やがて初孫が誕生すると、すっかり爺馬鹿に成

今に男泣かせの美人になるぞ」「ちょっと色黒だけどこの目鼻立ちを見てくれ、

来なかった。 した昔のケチで気難しい面影を想像することも出係自慢を繰り返す留吉の姿からは、一代で財を成系自慢を繰り返す留吉の姿からは、一代で財を成乳母車に乗せた孫をお守りしながら、誰彼となく「孫がこんなにも可愛いとは知らなかった」

段々厳しさを増していった。 十七年に初めて日本本土が爆撃され、戦局は

を知らない庶民だった。始まり、破滅に一歩一歩近づいていた日本の実情とバケツリレーによる消火訓練、竹槍訓練などが、旅後の守りを固めるとて、国防婦人会の火叩き

(続く

(読者投稿)

をとことをみな 京都府精華町 今井 直

だから、伴侶がいなくても家事は大して困らないは炊事や洗濯を器用にやってのけ、便利な世の中なんだが…」と、つい思ってしまう。近頃の男性「気立ての良い娘なのに…」、「朗らかで元気な奴「気立ての良い娘なのに…」、「朗らかで元気な奴で煩わしいと思うのか、私の知り合いにもたくさて煩わしいと思うのか、私の知り合いにもたくさ

理お見合い交流会」まであるとは、いやはや…。 理お見合い交流会」まであるとは、いやはや…。 き言葉が一般的になり、結婚願望はあるのかもしう言葉が一般的になり、結婚願望はあるのかもしっます」などはよく見かける広告で、「親御さんの代ます」などはよく見かける広告で、「親御さんの代ます」などはよく見かける広告で、「親御さんの代ます」などは、「大道」という話言が、一般的に子供をもうけ子育でするようだ。だが、年齢的に子供をもうけ子育でするようだ。だが、年齢的に子供をもうけ子育でする

万葉時代には「歌垣」という婚活パーティがあったらしい。そこでは互いに恋の歌を掛け合った、結婚相手を見つける歌垣が行われた。 下葉時代には「歌垣」という婚活パーティがあったらしい。そこでは互いに恋の歌を掛け合った、結婚相手を見つける歌垣が行われた。 下葉時代には「歌垣」という婚活パーティがあったらしい。そこでは互いに恋の歌を掛け合った、結婚相手を見つける歌垣が行われた。 下禁時代には「歌垣」という婚活パーティがあったらしい。そこでは互いに恋の歌を掛け合って、結婚相手を見つける歌垣が行われた。

「十か斬こ 夆/る見 (i) や催紫は 灰さすものぞ 海石榴市の

八十の衝に 逢へる児(こ)や誰

作者不詳 (万葉・巻十二三二〇二) 作者不詳 (万葉・巻十二三二〇二) 布地を紫色に染めるのに紫草(むらさき)という 市地を紫色に染めるのに紫草(むらさき)という 下がしたのである。すると乙女が返した歌は、「紫の色は灰汁(ぁく)をさして色鮮やかになるように、女も灰汁(ぁく)をさして輝くのだよ。だから貴女も俺灰汁(ぁく)をさして輝くのだよ。だから貴女も俺が派したのである。すると乙女が返した歌は、女もでが呼ぶ名を申さめど

(おっ母さんが私を呼ぶ名前を教えたいけれど、通りすがり作者へ詳 (万葉・巻十二−三一〇二)

(みち) ゆく人を 誰と知りてか

の誰か分からない貴方に、名前なんか言えませんよ

だ。 に気を持たせて恋のかけひきを楽しんでいるようたわけでもなく、受け入れるわけでもなく、相手というOKサインであった。娘はぴしゃりと断っと時は、名を告げるのは男に身を任せてもよい当時は、名を告げるのは男に身を任せてもよい

をさほ)」の地名を結んだ道が、今も残る「山の辺 の道」である。 いそのかみ) -布留(ふる) -高橋-大宅-春日-小佐保(き濡れながら影媛は恋人を追いかけた。「影媛あは 逃れたが、平城山で殺されてしまう。悲しみに泣 じていたことを知った武烈は激怒した。討手を差 て決闘したのである。そして鮪がすでに影媛と通 面前で、一人の女性をめぐり二人の男が歌でもっ 庭だから大勢の老若男女が集まっている。公衆の 付き添っていた鮪とにらみ合うが、そこは歌垣の の子で鮪(レび)という恋人がいた。武烈は影媛に が、媛には平群真鳥大臣(へぐりのまとりのおおおみ) ひのおおむらじ)の娘・影媛(かげひめ)に言い寄った 海柘榴市の歌垣で物部麁鹿火大連(もののべのあらか 天皇の条にその記述が見える。武烈が皇太子の頃、 に歌垣が行われていたらしい。『日本書紀』の武烈 れ」と詠まれた葬送歌で、影媛が辿った「石上(し向けられた鮪は、大和青垣の山麓を縫うように 海柘榴市は古く、少なくとも古墳時代末には既

よいよ佳境に入ると、男女がそれぞれ人垣を作っ肴で宴を開き、輪になって歌舞音曲に興じた。いると豊穣を感謝する行事だった。持ち寄った酒や花開く春には豊作を祈願し、紅葉に染まる秋にな速方からも多くの男女が神が宿る筑波の山に登り、殊に有名だ。行楽シーズンになると日時を定めて、別常陸国風土記』に記された筑波山の歌垣は、

恨み節だ。その一首、 で歌を掛け合うゲームが始まる。意中の相手に熱い思いを歌に託してプロポーズするのである。筑い思いを歌に話してプロポーズするのである。筑い思いを歌に託してプロポーズするのである。筑い思いを歌に託してプロポーズするのである。筑い思いを歌に託してプロポーズするのである。筑い思いを歌があった二首はどちらもフラれた男の歌は多すぎて、全部を載せることはできない。 した歌を掛け合うゲームが始まる。意中の相手に熱て歌を掛け合うゲームが始まる。意中の相手に熱

夜は早く明けて欲しいものよ) (筑波での歌垣の晩に、女がいなくて俺は独り寝だ。こんな我が寝む夜ろは 早も 明けぬかも筑波嶺に 廬(いほ)りて 妻なしに

一方、意気投合したカップルは、やがて手を取

男女の求愛の歌も優劣を競うものだった。「あたい 県白石町]、『摂津国風土記』逸文には歌垣山[大阪 り連れ立って、ひと組ふた組と森蔭などに姿を隠 者も黙ってはいない。ウィットに溢れる歌には集 の負けね。あんた、とっても素敵よ」の言葉を引 辺・市など境界を接する地で、人々が集まりやす る場所は、特定の集落の中心ではなく、野山や水 府能勢町]なども紹介されている。 歌垣が開催され るための古代人の知恵だったと思われ 来の少なかった時代に、婚姻により生活圏を広げ 言葉による挑みかけとしっぺ返しの繰り返しで、 く神が領する場でもあった。歌の掛け合いは、歌 ったらしく、『肥前国風土記』逸文に杵島岳[佐賀 す。実に開けっぴろげな風習である。歌垣は行き 当時はどこでも「歌垣」や「野遊び」は盛んだ 足で地を踏み鳴らす踏歌で雰囲気を 歌い掛けは続けられるが、 他の参加

されることとなる。らが二人の仲の目撃証人となり、男女の関係が許盛り上げた。めでたくカップルが成立すると、彼

おの妻すらを 鏡と見つも 住吉の 小集楽(をづめ)に出でて 現にも歌垣で自分の妻に出会った男の歌がある。

(住吉の歌垣に出かけると、目を疑ったが俺の妻。あいつは(住吉の歌垣に出かけると、目を疑ったが俺の妻。あいつは鏡のように輝くいい女で、あらためて惚れなおしたぞ) この歌の左注によると、摂津国の田舎者夫婦のに出くわした。普段は野遊びの集いという。当時は妻話だ。「小集楽」は野遊びの集いという。当時は妻話だ。「小集楽」は野遊びの集いという。当時は妻話が。「小集楽」は野遊びの集いという。当時は妻話が。「少集楽」は野遊びの集いという。当時は妻話が、「どうだい!俺の女房は奇麗だろう」と自慢した歌なのだ。しかし、これは夫の主殺のと自慢した歌なのだ。しかし、これは夫の主殺でといい。

(つど) ひて、休(いこ) ひ遊び酒飲み楽しむ」。さいでど) ひて、休(いこ) ひ遊び酒飲み楽しむ」。されている。詠み手は常陸守・藤原宇合と共にされている。詠み手は常陸守・藤原宇合と共に、彦には「夏の暑き時には、遠近(をちこち)の郷里よどころに歌垣の場面が記されている。久慈郡の条どころに歌垣の場面が記されている。久慈郡の条と呼ばれていたという。『万葉集』に「筑波嶺に登と呼ばれていたという。『万葉集』に「筑波嶺に登と呼ばれていたという。『万葉集』に「筑波嶺に登と呼ばれている。詠み手は常陸・藤原宇合と共に、京常陸国など東国では、和製漢語の「歌垣」はまり酒と肴とを持ちきて、男女(をちこをみな)が公職といる。

に群れ歓び咲(おら)へり」とある。と費きて、家をあげて男女も悉く出て来て、浜辺を聞きて、家をあげて男女も悉く出て来て、浜辺らに行方郡の条にも「杵を鳴らし曲を唱ひ、七日

男と女が、契りを結び喜怒哀楽を共にするのは、男と女が、契りを結び喜怒哀楽を共にするのは、いっただろう。昨今では「出会い系サイト」が大はやりだが、何だか不健康でドロドロとしたイメージが強く、犯罪の匂いさえ付きまとう。明るくあっけらかんとした歌垣とは好対照だ。万葉集の四千五百余首のうち七割近くが恋の歌だと云う。明るくあっただろうが、万葉びとはありったけの恋心を歌点な恋も、ひとすじの愛も、やるせない恋もあっただろうが、ア葉びとはありったけの恋心を歌点に託し、こころの翼を大きく広げて生きていたのである。

香島郡の条に登場する歌垣は、童子女(おとめ) 本の松原(神栖也)を押した。 これが、双方ともみめ麗は、童子女(おとめ) でいる。

が数々の青年に求婚され、思い余って入水する「同様の伝説を基にした歌で知られる。美貌の乙女麻呂が好みそうな題材だ。虫麻呂は地方に伝わる「このストーリーは、いかにも伝説歌人・高橋虫

ちに失われたのか、それとも虫麻呂は『風土記』 は、今日まで伝わっていない。長い歳月を経るう 4)、二人の若者に愛された娘が、自分のせいで男 真間(まま)の手児奈(てこな)」(巻九-一八〇七・一八〇 への記載で良しとしたのかもしれない。 かし、虫麻呂による童子女(うなね) 松原伝説の歌 たちが争うのを苦にして死んだ「葦屋の菟原娘子 (うなゐをとめ)」(巻九一一八〇九~一八一一)などだ。し

びついたのであろう。 り添って生えた樹木を、神木とする双樹信仰と結 変えた件(くだり)は、夫婦松や夫婦杉など二本寄 あじわい) に沈(おぼ) れ…」とある。思春期の二人 り楽しきはなし。偏(ひと)へに語らひの甘き味(れば、そう取れる。ギリシャ神話には、美少年ナ る身でありながらタブーを犯し、愛欲本能に溺れ であり大きな喜びだった。夜が明けて、神に仕え だ。初めて芽生えた愛に戸惑い、恋の仕方も知ら を吐露す…(中略)…今宵、ここに楽しびこれよ ろうか。『風土記』には、「松の木陰に身を潜め、 水仙に化した物語があるが、死んで松の木に姿を ルシスが泉に映る自分の姿に恋してこがれ死に、 たことを恥じて…心中した。想像をたくましくす ないが、少年と少女はただ一緒にいるだけで幸せ 手と手を相携え膝を寄せ合ひ、押さへてゐた思ひ 主人公の二人は、なぜ恥じて人目を忍んだのだ

時は、数え年で男は十五歳、女は十三歳になれば う。うなゐ髪の年頃の童女は、うなゐ娘子(おとぬ 襟首のあたりで髪を切りそろえた子供の髪型をい しで留めたり花の小枝を挿すのは、 結婚できた。女性が髪を結い上げて、櫛やかんざ とか童女放髪(うなゐはなり)と呼ばれる。この当 ところで、「うなゐ」となじみのない言葉だが 結婚できる年

> 齢であることを示していた。 聖徳太子生誕の地である橘寺

(明日香村)

での童

女放髪にまつわる万葉歌がある。 橘の 寺の長屋に 我が卒寝(ゐね) L

童女放髪は 髪上げつらむか

悪どちらを向くだろうか? もないから作者不詳としているが、もし仮に男が せにつながっており、人の心の二面性を表現して の、用途も製作年代も分からない謎の石造物があ の境内には、「二面石」と呼ばれる高さが一ばほど 年のフランス映画の一場面を彷彿とさせる。橘寺 になっているだろうか」と追憶するその姿は、 りない話である。この男、一夜の火遊びをふと思 この寺の僧侶だったとすれば… 二面石は、 る。無垢な顔つきの善面と歪んだ悪面が背中合わ い出し、「あの娘は髪を結い上げ、もう一人前の女 い。しかも聖徳太子ゆかりの寺で、不謹慎きわま いるという。歌を詠んだのは俺だと名のれるはず この歌はまだあどけないおぼこ娘だから罪が深 作者不詳 (万葉・巻十六ー三八二二) 善 往

参考文献 奈良県立 万葉文化館 『常陸国風土記』 秋本吉徳著 『風土記 上』 中村敬信監修 資料室 角川ソフィア文庫 講談社学術文庫 図書および諸文献

八郷暮らし(5)

さと女

緑濃く、まもなく夏が来る

シュウルフのミックス)のこどもが来た。当初は可愛く 子牛くらいの大きさになる 隣家の牛屋さんに、大型犬(グレートデンとアイリッ

> こが出来ないほど大きい。玄関の土間に放してい 作業が進まないようだ。 ら、大きく頑丈にしなければと頭を悩まし、中々 ら中ボロボロにしてしまう。流石世界一大きくな たが、机や椅子等を齧り、挙句に敷居まで、そこ 両手の中に入るほど小さかったが、今は誰も抱っ を製作中。何しろ子牛程の大きさ?になるのだか る犬だけあって、やんちゃも凄い。慌てて犬小屋

・異次元の世界

らしいと思った。やさとは本当に広い、 跡が。こんな空間でコンサートとか聞けたら素晴 周りは緑でいっぱい。そして古代の焼き物窯の遺 の空間だった。建物(レントハウス ヴァンヴェール)の らお願いしていた建物を案内してもらう。そこは 景は心を和ませ、 る。此処ブックカフェえんじゅから眺める田園風 があり、こんな日のドライブもステキと、出掛け カフェえんじゅ』からオープンしているとの告知 は、ジャーマンアイリスやあやめの青が『ブック しい、そして雨の日は青が似合う。我が家の庭に 知らない世界がいっぱい。 十三塚の入り口近くにあり、大変不思議で異次元 にお客もいなかったので、のむらさんに予ねてか 朝から激しい雨降り、雨に煙る山々や田圃も美 珈琲の美味しさも倍増する。

母の日に思う

ごしていた頃、 を思い出す。東京の蒲田に住み、忙しい日々を過 そんな中息子夫婦から宅急便が届く、そう言えば 「母の日」だった。嬉しさに頬が緩む。 この時期のグズズキを走り梅雨と言うらしい。 田舎(八郷)の母を思う余裕があっ 同時に昔

ている。久し振りに母を忍べた一日であった。られ乍ら母と暮らした15年で取り返せたと思ったろうか。それでも晩年八郷に戻り、周りに助け

朝のひととき

に載せて、食後のデザートに。

「職の恵み展で購入したイチゴジャムをヨーグルトなって来る。今朝は「こんこんギャラリー」の季も厨房に立っていると、それなりに仕事もサマにも厨房に立っていると、それなりに仕事もサマにも厨房に立っているでである。とれなりに仕事もサマに、朝食の支度をしていた夫だが一か月半強張っている手首だが、順調に回復している。そ

れやこれや忙しい。体調が良くなってきた証拠か。「治旅行があるらしい)ので、布団を出さなくては。ある間に雑草の山。今日は姉がやってくる(同窓会の綺麗に咲いている白と赤の芍薬廻りから始め、見始末等など片手では、はかどらないが庭草と格闘。「家中の埃・庭の雑草・犬のシャンプー・冬物の

娃と墓参り

横須賀の姉が帰郷。毎年、この時期に同窓会が横須賀の姉が帰郷。毎年、この時期に同窓会があるようで、今年は涸沼で一泊旅行とか。その姉誰かが、イギリスの庭みたいと呟いていた。姉はずれが好きで、帰郷の度に花の苗を持ってくる。ずれが好きで、帰郷の度に花の苗を持ってくる。ずれが好きで、帰郷の度に花の苗を持ってくる。がせている。突然の雷雨の中でしたが庭を散策し、かせている。突然の雷雨の中でしたが庭を散策し、かけれた。

・夫はスペインへ

天空の郷、中山開拓地

・旅の終わり

解放されるかな?庭の花たちは久し振りのお湿り朝から小雨が降り続いている、連日の暑さから

どが。その日の行動が家にいても楽しめた。しそうなスペイン料理、懐かしい人との交流、な路に着いています。毎日アップされていたフェー路に着いています。毎日アップされていたフェー路にがいる様です。フラメンコギターの吉川二

×

大がスペイン旅行から帰って来ました。念願の夫がスペイン流喫してきたようで、今朝は旅の疲れかは何も実行出来なかった。今日から夫も色々な予が、アッというまに12日間が過ぎてしまい、予定が、アッというまに12日間が過ぎてしまい、予定が、アッというまに12日間が過ぎてしまい、予定さそうです。とにかく御一行様8名元気に帰れて、まだ寝ています。仕方なく、雨の中コロちゃんをまだ寝ています。仕方なく、雨の中コロちゃんをまだ寝ています。仕方なく、雨の中コロちゃんをまだ寝ています。

Muno き部屋中が大変な事に。私への大量のお土産は洗き部屋中が大変な事に。私への大量のお土産は洗されて、関空から送ったスーツケース2個が着

・おみくじの機械

った。数年前の朝ドラ「あまちやん」でこのおみようになり、2000年頃には殆ど見かけなくなば10円コインを星座の穴に入れレバーを押すと、昭和時代、レストランや喫茶店のテーブルには大概このおみくじ器が置かれていた。昭和30年代に昭和時代、レストランや喫茶店のテーブルには大県の金型工場(従業員1人)と言っていた。懐かしい場の金型工場(従業員1人)と言っている会社は、岩手くじ器がじわじわと流行って来たと報じられていた。数年前の朝ドラ「あまちやん」でこのおみは10円コインを星座の穴に入れレバーを押すと、明の金型工場(従業員1人)と言っている会社は、岩手に、テレビニュースで、ルーレット型のおみよりになり、200円を持ている。

又ブームになろうとは、叔父も喜んでいるでしょらい、年に数回集金旅行をしていた。品川の立もらい、年に数回集金旅行をしていた。品川の立もらい、年に数回集金旅行をしていた。品川の立ちらい、年に数回集金旅行をしていた。品川の立くじ器が映り、その後じわじわと注文が殺到してくじ器が映り、その後じわじわと注文が殺到して

・ことば座公演 (常世の国の恋物語第37話)

当時のものを1つだけ形見に持っている。

った所為か新鮮な感じがした。

「大型のの館で行われた。ロビーには風の会メンバまわりの館で行われた。耳話舞の作品が展示され、中の文庫展やことば絵教室展の作品が展示され、中の文庫展やことば絵教室展の作品が展示され、中の文庫展やことば絵教室展の作品が展示され、中の文庫展では露した。手話舞の作品が展示され、中の文庫展やことば絵教室展の作品が展示され、中の文庫と関いる。

· タの F

の後、会議があると出かけて行った。
やユー。父の日、なので準備はすべて本人が。そんな日のプレゼントは嬉しい。夕方は2人バーべ父の日、普段あまり干渉しあわない親子だが、こ嫁さんからサクランボが届いた。そうだ、今日は嫁さんからサクランボが届いた。そして今日は自宅昨日夫は万葉の森の草刈り、そして今日は自宅

養生日記堀江美穂

米月某日

参加することにした。のバス旅行でもあったが、断ってバーベキューにしいイベントの一つである。その日は、デイケアー業所でバーベキューがあった。作業所での楽

イローゼに罹ってしまった。
嫌味のような言葉を何かにつけて言われ続け、ノ食べたわけではないのに、何時も言われていた。食事の度に言われたのである。そんなに卑しく「嫁は、いやしく食べるんじゃない」

を作ってしまった。
食事の節制は私の大命題。でも、悲しく心に傷

某月某日

良く絶好の観戦日だった。職員さんの引率で仲間達と観戦してきた。天気も職員さんの引率で仲間達と観戦してきた。天気も

ーを見ること以上に楽しかった。った。きれいに整えられた芝生を歩くのは、プレのトッププロのプレーを間近に見られ、大興奮だ私もグランドゴルフをやっていたので、ツアー

を持ってきていて、ピクニック気分に観戦を楽し、観戦に慣れた人たちは、椅子やビニールシート

んていた。

だのは。

「無に吹かれて、地面に座り込んで自然の中に遊んがれながら観戦を楽しんだ。もう何年ぶりだろう。かれながら観戦を楽しんだ。もう何年ぶりだろう。

日は軽く感じ、歩くのが楽しく感じられた。 普段は、重い体で歩くのが苦手な私だが、この

スペインの旅《風の呟き》

い(私の知識不足)祭りに出会った。ツアーの7日目か8日目のこと。聞いた事のな

まえる。 旅も後半、バスで長時間走り、やっとセビリア がも後半、バスで長時間走り、やっとセビリア がも後半、バスで長時間走り、やっとセビリア

と、ヒターノのお祭りだと言う。 貧しい人たち (?) のお祭りとか。色々聴いて見るパレードを見学していた地元の人に聴いて見ると、担いだ (神輿の様に) 煌びやかな舞台のようなものが。パレードを連ね、そして、行進の最後に多人数でパレードを連ね、そして、行進の最後に多人数でパレードを連ね、地区ごとに紋章や旗などを立て

う。 山のトラクター等で索引した飾り車の行列に出会 翌日、カディスに向かう高速道路で見かけた、沢







すタイミングが難しい。索引車はトラクターが多 るようです。車を追い越し際なので、近すぎて映 も家族ごとだったり、仲間ごとだったり、 そして皆楽しそうだった。祭りなのかな? ネットでこのローカルのお祭りを調べて見

の4つの代表的な行程があります。

よって利用されることが多い「セビージャの道! スペインのその他の地方や他国から訪れる人々に バから来る人々が通る「モゲールの道」、そして、 テから続く最も古い道「リャノスの道」、ウエル

・ロシオ巡礼。

りムードに包まれます。宗教と宴が混ざり合った 聖堂へ向けて年1回の巡礼を行います。 されます。数十万人もの人々がスペイン各地だけ 行が、ロシオ村を目指す巡礼路は、賑やかなお祭 から17キロにあるロシオ村のブランカ・パロマの でなく、他国からも訪れて、アルモンテ(ヴェルバ) このお祭りは、聖週間が終わってから50日後に催 万人を超える人々と10にも上る信心会の一

ます。日中には、信心会は、 く歌いながら賑やかに進み、 カディスやその他の地方の拠点からそれぞれのロ ャンプして、焚き火のまわりで歌い、踊り、 シオ信心会が出発し、土曜日にロシオ村に到着し に着て馬で、または馬車で、 最も伝統的なロシオ巡礼は、フラメンコ衣装を身 て、そこから月曜日まで続く巡礼祭に参加します。 祭りの1週間前から、ウエルバ、セビージャ、 あるいは歩いて行い 夜になると野外にキ 民謡などの歌を声高

しい。梯団(10台~20台)が飛び飛びに何梯団も連 数日間、掛けて小さな村(ロシオ村)に行くら 初めて聞くお祭りのなま ぎまで続けます。 カディスから来る人々が通るドニャーナ国立公

「ロシオ巡礼」私は、

なっている。部分渋滞はするが、みんな慣れてい

ると見え大きな混乱はない。 車ごとに飾り付けが違って、乗っている人たち 色々あ

物や飲み物を分け合いながらの楽しい宴を夜半す

園を通り抜ける「サンルーカルの道」、

アルモン

曜日には、ミサが捧げられ、そして夜になるとこ リスト・デ・ラ・ベガ礼拝堂の 的な宗教的な祭りは、 祭壇の柵を越え、像を肩に乗せて村を練り歩きま テの人々がマリア像を礼拝堂から担ぎ出すために の週末でも最も感動的な瞬間「柵越え」を心待ち 会のシンボル)を捧げるための行進が行われます。 日 り、ほかの信心会の到着を待ちます。土曜日には、 もに始まります)等色々あるようです。 礼祭を祝う伝統が、まだ生きています。この大衆 えているのです。ロシオ以外にも、ロメリア巡礼 ますが、頭のなかではもう翌年の巡礼のことを考 す。行事が終了すると信心会の人々は帰路に着き にして誰もが眠りません。月曜日の朝にアルモン 鐘が鳴り続けるなか、マリア像ヘシンペカド(信心 (トレドには人里離れた礼拝堂 (エルミタ) で巡 ロシオ村に着いた順に巡礼者たちはテントを張 セマナ・サンタの後に、ク 「再金曜日」とと

に集まった弟子やら各地の有力者が奪い合うよう より入滅した時には、荼毘に付された遺骨を葬儀 多様であるが其れは後世の事で、 にして持ち去ったから灰しか残らなかった。 に釈迦がガンジス河上流のクシナガルで食中毒に もあるから不可欠なのは仏像になる。 寺院と言えば僧侶と仏像であるが僧侶無住の寺 BC三八三年頃 仏像も多種

属製なので切ることが難しかったのであろう。 らしい。タキシラは仏教美術の発祥地でありヘレ ち髭が伸びた座像だが、此の像以外は健康な体格 る仏陀」の像が有る。目と腹が凹んで胸骨は目立 郊・ガンダーラであり、中心都市ラホールの博物 て少し東南に行った地方の古都市ペシャワール近 心地がパキスタン西北部のインダス川上流を越え リアルな造形で後世に伝わる事になった。其の中 徒に首を切られている。「断食する仏陀」の像は金 初期の仏教美術を伝える石像などは大部分が異教 ニズム文化の影響で仏塔、仏像などが作られた。 館にはガンダーラ美術の代表作とされる「断食す ようで形の無かった釈迦の教えも「仏像」と言う ギリシア人は何でも形にして残すのが好きだった マケドニアのアレキサンダー大王に征服される。 此の地方は古くから他民族の侵略を受けており 半世紀ほど後に、オリエント地方はギリシア系 近辺の遺跡タキシラから発掘されたもの

保てるらしい。災害は止むを得ないが、壊す奴に 遺跡を保護してくれたので辛うじて現在の状態が ア王朝の第三代・アショーカ王が、荒廃した仏教 前二百年代に古代インドを最初に統一したマウリ 壊す奴も居れば護る者も居るのが人間で紀元

必須アミノ酸

りないので、「必須アミノ酸」或いは「不可欠アミ が、残り9種類(*1)は必ず外部から摂取するよ されている。人体のタンパク質は20種のアミノ酸 猫の必須アミノ酸は10種類、 食品を併用しなければ健康は維持できない。大と 食としてはいささかバランスに欠ける。そこで大 含有率はいずれも少なく、システィンやメチオニ や小麦粉は、9種の必須アミノ酸の内、リジンの からなり、11種類のアミノ酸は体内で合成できる 計図に従い、多数のアミノ酸を組み合わせて構成 豆のような、9種類が実にバランスよく含まれる ンは多い。その差は1対3ぐらいのスコアで、主 ノ酸」とも言われ、動物種によって異なる。白米 動物のタンパク質は、遺伝子に書かれている設 【(*)人類の完全必須アミノ酸9種:イソロ 魚は11種類である。

の貝毒成分ドウモイ酸、 テニン、海人草の薬用成分カイニン酸、記憶喪失 とおりに研究され、配合されているかについては き起こしているが、アミノ酸が人体に必要な量の いては、成人のほぼ50%増が適切と言われている。 量は、WHOなどで定められているが、幼児につ 不明確な点があるので要注意。成人に必要な摂取 なお、天然のアミノ酸には、茶の旨みの成分カ 近年、サプリメント食品が健康食品ブームを引 テングタケの毒成分イボ

ールアラニン、トレオニン、トリプトファン、ヒ

イシン、ロイシン、リジン、メチオニン、フェニ

スチジン、バリン】

テン酸などがある。

):アミノ酸に関し余談を一

るので、関連し、毒物について触れてみたい。 チロシン、トリプトファンなどアミノ酸が使われ チン、モルヒネなど)にはオルニチン、リジン、 アルカロイドの生成前駆体(アトロピン、ニコ

こぶし大)切り捨てれば肉が食べられる事を知っ 毒はアイヌが常用。鏃(やじり)に塗布し、ヒグ す」と呼ぶようになったという。なおトリカブト がゆがんだ人を指すので、転じて、不美人を「ぶ と呼ぶ。俗に不美人を「ブス」と呼ぶが、根拠は、 と呼び、同じものを毒物として用いる時は(ぶす) 薬物として利用する時は乾燥塊根を「附子」(ぶし) カロイド)や毒物(神経毒)として用いられる。 漢方薬(鎮痛・強心剤・主成分アコニット・アル るから。トリカブトの塊根を乾燥させたものは、 名前の起源は、花が古来の衣装「鳥兜」に似てい 類もあり、多年草で、花は紫・白・ピンクなど。 ギ③ドクゼリ。最強のトリカブトは、日本で30種 トリカブト矢の所為ともいわれた。 の蝦夷征伐がなかなかうまくいかなかったのは、 ていた。後の東北のマタギも同じ。更に大和朝廷 マやエゾシカを狩り、矢の刺さった部位を(握り トリカブトの中毒で神経に障害が起き、顔の表情 日本の3大有毒植物は①トリカブト②ドクウツ

は絶対に前者の類を支持したい。 のと言える。それゆえ、世界を平和に導くリーダ スギスした世界情勢は、後者の類が築きあげたも 方、薬にもなるが毒にもなる人もいる。 世の中には毒にも薬にもならない人がいる。一 は、凡庸でもいい。鈍重と言われてもよい。 今日のギ 私

風と戯れて

木下明男

南風吹く季節に

も一日限りのあらし。昨日も今日もまた晴れ続き。 これを空梅雨と言うのかな? 梅雨入りしてから晴れ続き。やっと訪れる雨降り ・つゆぞらに 天(てん)を見上げて今日も晴れ



突如激しく泣く声に何事かと起きてみると、外は ・あさぼらけ コロ(犬)の吠え声 夏あらし

雷雨の大嵐。

名前があろうと 無かろうと今を精一杯いきる。 ・名無し草 南風吹く丘で 雨乞いを



打田昇三

待ち時間であり、某国の著名人が実弟の指示で? しい。旅に出て勿体なく思うのは乗り継ぎなどの い主?から借りられなかった為であろうか。 いた。要人の暗殺に毒蛇が使われなかったのは飼 内に猛毒のコブラを使う芸人が居て蛇が熱演して 有る。当時は待ち合わせ客用サービスで空港施設 港に搭乗まで八時間四十五分も放置された記憶が 暗殺されたマレーシアのクアラルンプール国際空 唯一の趣味であった旅行にも行かなくなって久

されてからフランクフルト経由のクロアチア航空 のが普通であるが、安い料金でアドリア海沿岸部 ア上空か北極圏経由フランクフルト辺りへ向かう へ行ったので、先ず成田からボルネオ島のコタキ バル経由クアラルンプールへ行き、長時間待た ヨーロッパへ行く場合、北周りで成田からロシ

> 覚悟していたら、そのとおりになった。 かかってようやく着いたのである。帰りも同じコ でザグレブへ向かった。日本から約三十六時間も エアバスA三一九型という古い型の珍しい航空機 スなのでクアラルンプールで待たされることを

も無しで熱帯ジャングルを放浪させられた。 残したのである。それも後続便で届けるでも無く の大荷物を優先させ、旅行客の荷物を故意に積み 丁度、年末で現地の航空会社が地元出稼ぎ労働者 のに肝心の荷物が行方不明になったことがある。 週間も先の訪問予定地に回されたから、着替え それとは反対に、本人は順調に目的地へ着いた

分が歳をとって呆けてきたからに他ならない。 でも旅に出る元気が無くなったのは、それだけ自 空会社や旅行会社は親切である。其の親切な日本 客を客とも思わない異国と違って、日本の航

打田昇三の私本・平家物語

【特別企画】

巻第六 - (二 - 2)

入道死去(にゅうどうしきょ)のこと

果が出ることがある。「巻第四、源氏揃」に登場した もないのに四国の武士たちは平家離れをしたのであ く…」と書き出しにあるから、 れをキッパリと御破算にして源氏に味方すると噂さ 熊野別当湛増も平家から恩を受けた身であったが其 ろう。現代でも選挙の際には予測出来ない人望の結 四国の兵ども、 みな河野四郎に従い付 誰が言い出した訳で

嘆き悲しんでいた。 世の中が終りになるような気がして、心ある人々はる」状態であり、平家一門で無くても此の場限りで敵の蜂起耳を驚かし、逆乱の急報が頻繁に奏せられ付き南海・西海はこの様な状況であったから正に「夷れていた。既に東国と北国は悉(ことごと)く源氏に

を御世辞を言って褒めた。 を御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 と御世辞を言って褒めた。 養和元年(二八二)二月二十三日、高級公家の会

て寄せ付けない。

調子を合せる。皇族にして置くには勿体ない怪物で調子を合せる。皇族にして置くには勿体ない怪物で必者たち(源氏に加担した者)を討つように後白河法皇是により平宗盛を大将軍として東国並びに北国の反是により平宗盛を大将軍として任命されている者には、である殿上人も、武官として任命されている者には、高級公家である公卿(くぎょう)も、その他の公家

が、焼け石や焼けた鉄に掛けたように弾き飛ばされが、焼け石や焼けた鉄に掛けたように弾き飛ばされたのだが水が湧き上がり湯になるだけであった。少来て、それを石の船(浴槽)に満たし、清盛を冷やしたのだが水が湧き上がり湯になるだけであった。少来て、それを石の船(浴槽)に満たし、清盛を冷やしたのだが水が湧き上がり湯になるだけであった。少れでも熱を冷まそうと湧水を樋に流して掛けたのだか、焼け石や焼けた鉄に掛けたように弾き飛ばされている。本人も発力を通りであり、それも普通の熱では無い。まなくては終りであり、それも普通の熱では無い。

部屋中が熱気と冷やす作業の水蒸気とで濛々(もう)としていた。是はかつて第四十六代の東大寺別もう)としていた。是はかつて第四十六代の東大寺別当であった法蔵僧都(ほうぞうそうず)が死んだ母親の当である焦熱地獄へ案内をさせたところ、鉄の門から中ある焦熱地獄へ案内をさせたところ、鉄の門から中ある焦熱地獄へ案内をさせたところ、鉄の門から中ある焦熱地獄へ案内をさせたところ、鉄の門から中ある焦熱地獄へ案内をさせたところ、鉄の門から中た三方。それを思い出す程の凄さであった。

訊ねると、供の怪しい奴が「閻魔できれている。夢の中で「何処から来たのか?」が建てられている。夢の中で「何処から来たのか?」たのか火の車がやって来た。供の者は牛や馬の顔でたのか火の車がやって来た。供の者は牛や馬の顔である。平家屋敷全体が清盛の熱で暖められていのである。平家屋敷全体が清盛の熱で暖められているである。平家屋敷全体が清盛の熱で暖められているである。

罪に依って、清盛公が無間の底(八大地獄中の最下位にあ寺に在った金銅十六丈の廬遮那仏を焼き滅ぼされた「南閻浮提(なんえんぶだい=仏教で言う世界の中心)東大した」と答えた。「鉄の板は何の意味か?」訊ねると(えんま)の庁から平家太政入道殿のお迎えに参りま

罪深いことである。其処まで言うのならば、

めなどして居ないで自分で関東に行けば良かった。

いません」と親切に説明してくれた。めに"無間"と書く途中で、未だ半分しか書かれてる地獄)に落ちることに決定しました。それを示すた

周りの者に説明をしたので、 それこそが孝養である…」と、ようやくに言うのが 手を差し向けて頼朝の首を取り我が墓前に置くべし。 て孝養・供養をすべからず、今直ぐにでも東国に討 死することである。私がどうなろうとも、 伊豆国に流罪とした前兵衛左・源頼朝の首を見ずに 子孫に及んだ。今さら何も望みは無いが、 たじけなく)も天皇の祖父・太政大臣に至り、栄華は 度々の戦に朝敵を平げて身に余る恩賞を頂き、忝(か くさえも苦しげに「われ、保元の乱、平治の乱から の無しで威張っていたけれども高熱の所為で息をつ 下さい…」と泣く泣く言えば、清盛も普段は怖いも 置くことが有れば御記憶の定かなうちに仰せられて うで、回復も覚束なく思われます。もし、何か言い 病状を見るに、日が経つ程に熱が酷くなってくるよ 清盛の北の方は暑さを堪えて清盛の枕許に寄り、「御 は清盛の枕許に集まって嘆き悲しむばかりであった。 けで、清盛の病状は一向に良くならない。平家一族 物を贈って祈祷を頼んだけれども得をしたのは寺だ 兜、弓矢、太刀など、何でも金に替えられそうな品 経に言う七寶(瑠璃、真珠、硨磲など)から馬、鞍、鎧、 延暦寺、東大寺、興福寺、園城寺などに金銀や法華 と言っても全部では間に合わないから東寺、仁和寺、 ではあるが、其の辺りの霊験あらたかな神社仏閣に、 に急に寒気がして恐ろしさに震えあがった。 この年は二月が二回在って、寒い盛りなのだが、 北の方は、其処で暑さに目覚め、汗をかきなが 聞いた者たちは暑いの 堂塔を建 心残りは

養和元年の二度目の二月四日、病苦に耐えきれず養和元年の二度目の二月四日、病苦に耐えきれずをといた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをていた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをていた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをでいた寿命であり、寺社仏閣であらゆる祈祷などをしていたが少し、大田の田の一名に対しているが、大田の一名には、大田の一名に対している。

清盛は主君に代わり命を捧げるような忠義の士を 育要参照)

「清盛は主君に代わり命を捧げるような忠義の士を でなる。遺骨は円実法眼(えんじつほうげん=左大臣・藤 でなる。遺骨は円実法眼(えんじつほうげん=左大臣・藤 でなる。遺骨は円実法眼(えんじつほうげん=左大臣・藤 になる。遺骨は円実法眼(えんじつほうげん=左大臣・藤 になる。遺骨は円実法眼(えんじつほうげん=左大臣・藤 になる。遺骨は円実法眼(えんじつほうげん=左大臣・藤 になる。遺骨は円実法眼(えんじつほうげん=左大臣・藤 の病死は自に懸けて神戸・経の島に納めた。(次 の病死は自に懸けて神戸・経の島に納めた。(次 の病死は自に懸けて神戸・経の島に納めた。(次 の病死は主君に代わり命を捧げるような忠義の士を でみ参照)

つ、虚しい土に還ってしまった。ばね) は暫(しば) し安らいて濱の砂に戯(たわむ) れつも、身は一片の煙となって都の空に立ち登り、屍(かさしも日本全土に名を上げ、威力を振るった人物

築島(つきしま)のこと

に溶けようが生前の因果で其れ相応の残業をさせら有名人は死後も忙しいようで、土に返ろうが、水

れるらしい。平清盛の場合も例外ではない。

御所であった法住寺殿に来た。 御所であった法住寺殿に来た。 大ち百人ほどが笑い声を辿って行くと後白河法皇の業であろうかと、平家の武士の中で血気盛んな若者るべきところ、この様なことが起きるのは天狗の仕た。一般の庶民まで少しは悲しそうな振りをしていであるのに、僅か中一か月ほどで入道相国が他界して裏中去る正月には高倉上皇が逝去されて国として喪中

ら、平家系であったと思われる。
法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に鳥羽殿に幽閉されていたから此法皇は清盛の為に見羽をいる。

戦のことばかりであった。

空き屋敷に目を付けて内緒の飲み会を開いていたでけなのであるが、最初のうちは静かに飲んでいただけなのであるが、最初のうちは静かに飲んでいただけなのであるが、最初のうちは静かに飲んでいたをいまった。要人の喪には、身分の低い者も朝晩にてしまった。要人の喪には、身分の低い者も朝晩にでしまった。

子が多かった。比叡山麓の日吉社(山王神社)に参詣気の毒であったが、誠は「只の人」とは思えない様平清盛について、最後の病気で苦しむ様子だけは

と人々が言い合っていた。宇治の平等院への参詣などよりも此の方が豪華だ」字治の平等院への参詣などよりも此の方が豪華だ」をしていて「摂政関白が任官時に春日へ参詣したりされた際も平家一門を始め、公家たちの多くが供奉

情盛の礼讃記事は次の章段に続いている。 一点に、 本を奉行として工事を再開した。その際に、人柱、をを奉行として工事を再開した。その際に、人柱、をを奉行として工事を再開した。その際に、人柱、をを奉行として工事を再開した。その際に、人柱、をなるべし、などと言う公卿も居たが、清盛が「それは罪作りである!」と言って、石の表面に一切経れは罪作りである!」と言って、石の表面に一切経れは罪作りである!」と言って、石の表面に一切経れは罪作りである!」と言って、石の表面に一切経れは罪作りである!」と言って、石の表面に一切経れは罪作りである!」と言って、石の表面に一切経れは罪作りである!」と言って、石の際に、人柱、を が島の名称は、其のことから起こったのである。平が島の名称は、其のことから起こったのである。平

慈心房(じしんぼう)のこと

の生まれ変わりである。 の生まれ変わりである。 の生まれ変わりである。 平家物語の作者も平清盛の評判が下降気味なので 平家物語の作者も平清盛の評判が下降気味なので 平家物語の作者も平清盛の評判が下降気味なので

寺に住んだので近隣の人々が帰依していた。その尊途中から一層の求道心を起こして比叡山を下り清澄叡山の学僧で永年に亘り法華経を深く信仰していた。あり、其処に来ていた慈心房尊恵という僧が元は比るの訳は摂津国 (兵庫県宝塚) に清澄寺と言う山寺が

の仰せにより達する。閻魔の庁」も参列するように。(転読は要所だけ、読むこと) 閻魔大王を転読させられることになった。そこで慈心房尊恵

仏だけ唱えていた。と言っても手続きが分からない。仕方が無いので念と言っても手続きが分からない。仕方が無いので念ら寺院の主である光影坊に相談をした。光影坊も驚ら寺院の主である光影坊に相談をした。光影坊も驚まったが、場所が死後の世界なので、目が覚めてか夢の中であるから簡単に手紙の受け状を書いてし

局員の様な男が今度は二人で現れて「早く御出でな就寝した。午前二時頃になると、先日に現れた郵便零時ごろに眠気を催したので、住居の坊舎に戻って様に脇息に依りかかって念仏を唱えていたが、午前十二月二十五日の夜更けに寺の本堂で、前と同じ

発ったのである。

快速列車のように空を飛んだ車は間もなく閻魔大王に仕える各級公務員?が大王様の前に平伏して上が待つ地獄の宮殿に到着した。その王宮(と言って王が待つ地獄の宮殿に到着した。その王宮(と言って王が待つ地獄の宮殿に到着した。その王宮(と言って王が待つ地獄の宮殿に到着した。その王宮(と言って大正に仕える各級公務員?が大王様の前に平伏して、

の僧侶がお供に付いている。 と 見を見た尊恵は「有難い光景を拝見できた。折角、 是を見た尊恵は「有難い光景を拝見できた。折角、 是を見た尊恵は「有難い光景を拝見できた。折角、 是を見た尊恵は「有難い光景を拝見できた。折角、

魔大王の身辺を世話していた。

「大王の身辺を世話していたのは魔女たちであり閻おらに十人の僧に化けていたのは魔女たちであり閻病苦を除く薬王菩薩と出世を施す勇施菩薩であった。は帝釈天の部下の多門天と持国天であり二人の僧はは帝釈天の部下の多門天と持国天であり二人の童子に壇上から下りて尊恵を迎えてくれた。二人の童子に道一くと、大王以下が予想外ようやく閻魔大王に近づくと、大王以下が予想外

閻魔大王は「行事が終わって他の僧たちは現世に

み聞かせた。 め聞かせた。 の死後について知りたくて残りました。尊恵が「人間いるのか?」と常識的な質問をした。尊恵が「人間の死後について知りたくて残りました」と答えると、の人物の信心、不信心に在り…」と教科書的な返答の人物の信心、不信心に在り…」と教科書的な返答の人物の信心、不信心に在り…」と教科書的な返答でし、さらに冥土で地位のある役人に命じて「このをし、さらに冥土で地位のある役人に命じて「このをし、さらに冥土で地位のある役人に命じて「このをし、さらに冥土で地位のある役人に命じて「このをし、さらに冥土で地位のある役人に命じて「このをし、さらに冥土で地位のある役人に命じて、とれる道に表った。 世が現世でおこなった教化の記録箱が南方の蔵に 大事な記録であるから蓋も中々、開けられなかった 大事な記録であるから蓋も中々、開けられなかった けれども、ようやくに開けてみると尊恵の行状と、 けれども、ようやくに開けてみると尊恵の行状と、 けれども、ようやくに開けてみると

尊恵は其れを書き留めた。 尊恵は増として自分の至らなさを痛感し、涙を流 して「願わくば我を憐れみ給い、生死のある人間社 して「願わくば我を憐れみ給い、生死のある人間社 とで離脱して悟りを開く方策を教えたまえ」と哀願 会を離脱して悟りを開く方策を教えたまえ」と哀願 の偈(げ=仏の功徳や法理を述べた短い言葉)を唱えてくれ の偈(が言仏の方法を憐れみ給い、生死のある人間社

「妻子王位財眷属…さいしおういざいけんぞく「妻子王位財眷属…さいしおういざいさいけんぞくを言えば、閻魔大王は此の文句を書いて尊恵に渡した。と話が、閻魔大王は此の文句を書いて尊恵に渡した。と話が、閻魔大王は此の文句を書いて尊恵に渡した。と話が、閻魔大王は此の文句を書いて尊恵に渡した。とに一面に座を置き説法読経を丁寧に修されましたと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でとに一面に座を置き説法読経を丁寧に修されましたと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でと言えば、閻魔大王は感激して「かの入道は只人でと言えば、閻魔大王は感激して「かんむくがというというによりないぞうというによりない。

http://www.furusato-kaze.com (白井啓治方)

2

※昨年あたりから、当会報も写真をつける記事が多 なカラ―写真入ったPDF会報が見られます。 記のホームページにアクセスいただければ、 りませんの、見苦しい点があるかと思います。左 くなりましたが、カラー印刷のできる印刷ではあ

魔王庁の兵士たち十人が、 と言うが、尊恵律師は無事らしいから世の中は何処 までが嘘か良く分からない。 にしてくれた。嘘をつくと閻魔大王に舌を抜かれる 物を賜った上に、官位では五位に相当する「律師」 ような嘘の話をしたので清盛は喜び、多くの引き出 うことになっている) 書状を持って西八条館へ行き嘘の 夢から醒めた尊恵は閻魔大王から授けられた(と言 尊恵は来た時と同じように飛行機便で帰国した。 尊恵は是を貰って大極殿の南の中門を出る時に閻 悪業衆生同利益…悪業の恐ろしさを自ら示した」 示現最初将軍身…初に将軍として現れ 車の前後に従った。

我は

毎日、

三度、

の人を礼拝している。

その文章

が有るので是を日本に持ち帰って渡すべし…」と言

って次の様に書いたものを与えた。

天台仏法擁護者…貴方は天台仏教の擁護者なり 敬礼慈恵大僧正…大僧正を敬い申しあげる

ふるさと風の会会員募集中!!

当会では、「ふるさと(霞ヶ浦を中心とした周辺地域)の歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を 募集しております。

自分達の住む国の暮らしと文化について真面目に考え、声高くふるさとを語り、考える方々の入会をお 待ちしております。

会の集まりは、月初めに会報作りを兼ねた懇親会と月末に雑談:勉強会を行っております。

○会費は月額 2,000 円。(会報印刷等の諸経費)

※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

昇三 0299-22-4400 白井 啓治 0299-24-2063 打田 0299-26-7178 伊東 弓子 0299-26-1659

「ことば座団員」&「朗読教室生徒」募集!!

劇団員の募集

ことば座は、霞ヶ浦を中心とした「ふる里物語」を朗読手話舞と朗読劇に表現する劇団です。ことば座では、スタッ フ部門・俳優部門の団員を募集しています。

ふる里劇団に興味をお持ちの方の連絡をお待ちしています。

朗読教室生の募集

朗読とは、物語を読み聞かせるのではなく、声に劇しく(はげしく)心を演じることを言います。何かで自分表現を したいと考えておられる方、朗読による自分表現を考えてみませんか。演劇表現としての朗読の基礎を学び、朗 読で自分表現を、また朗読で「ふる里の歴史・文化」をつたえて行きたいとの思いのある方、連絡をお待ちしてお ります。 月1回コース(受講料: \(\frac{2}{2}\) (受講料: \(\frac{2}{2}\) (受講料: \(\frac{2}{2}\) (受講料: \(\frac{2}{2}\) (受講料: \(\frac{2}{2}\) (受講 \(\frac{2}{2}\) (受 \(\frac{2}{2}\) ()

連絡先 080-3125-1307(白井)